

第31回日本肝胆膵外科学会 学術集会後アンケート集計結果

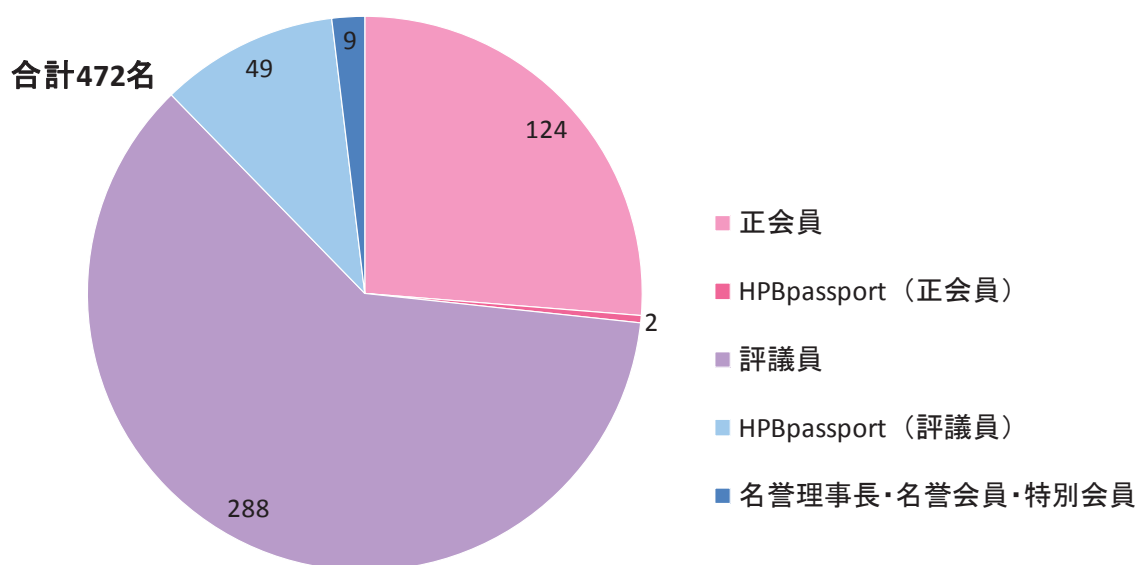
2019年6月13日～15日

サンポートホール高松

会長 鈴木 康之先生

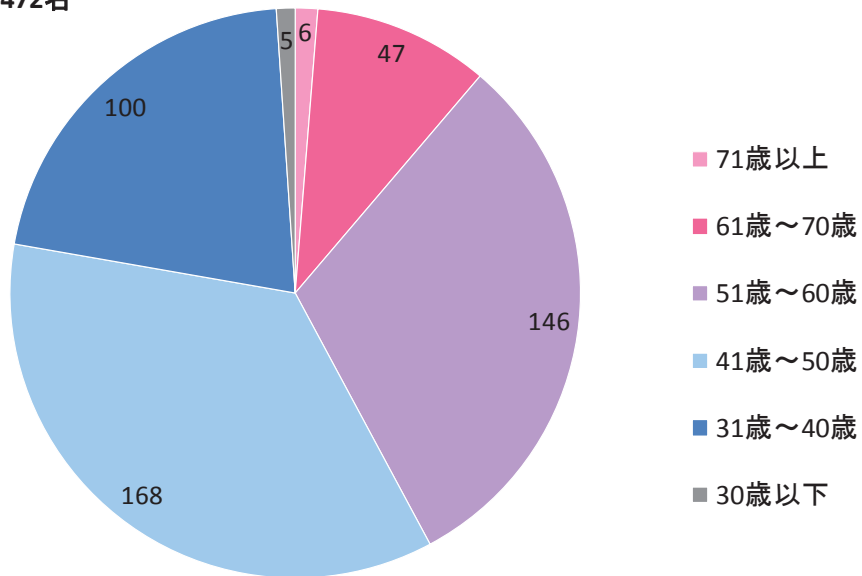
(香川大学医学部消化器外科)

問1.会員区分について



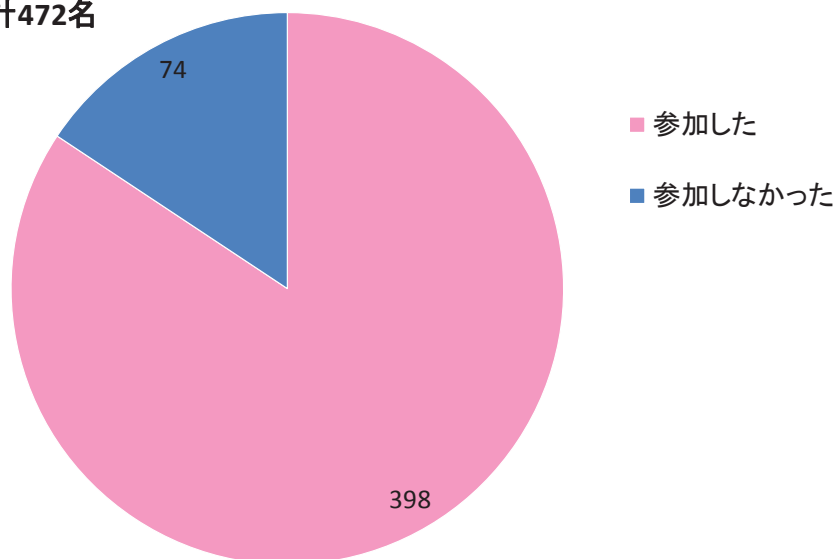
問2.年齢

合計472名



問3.学術集会への参加・不参加

合計472名



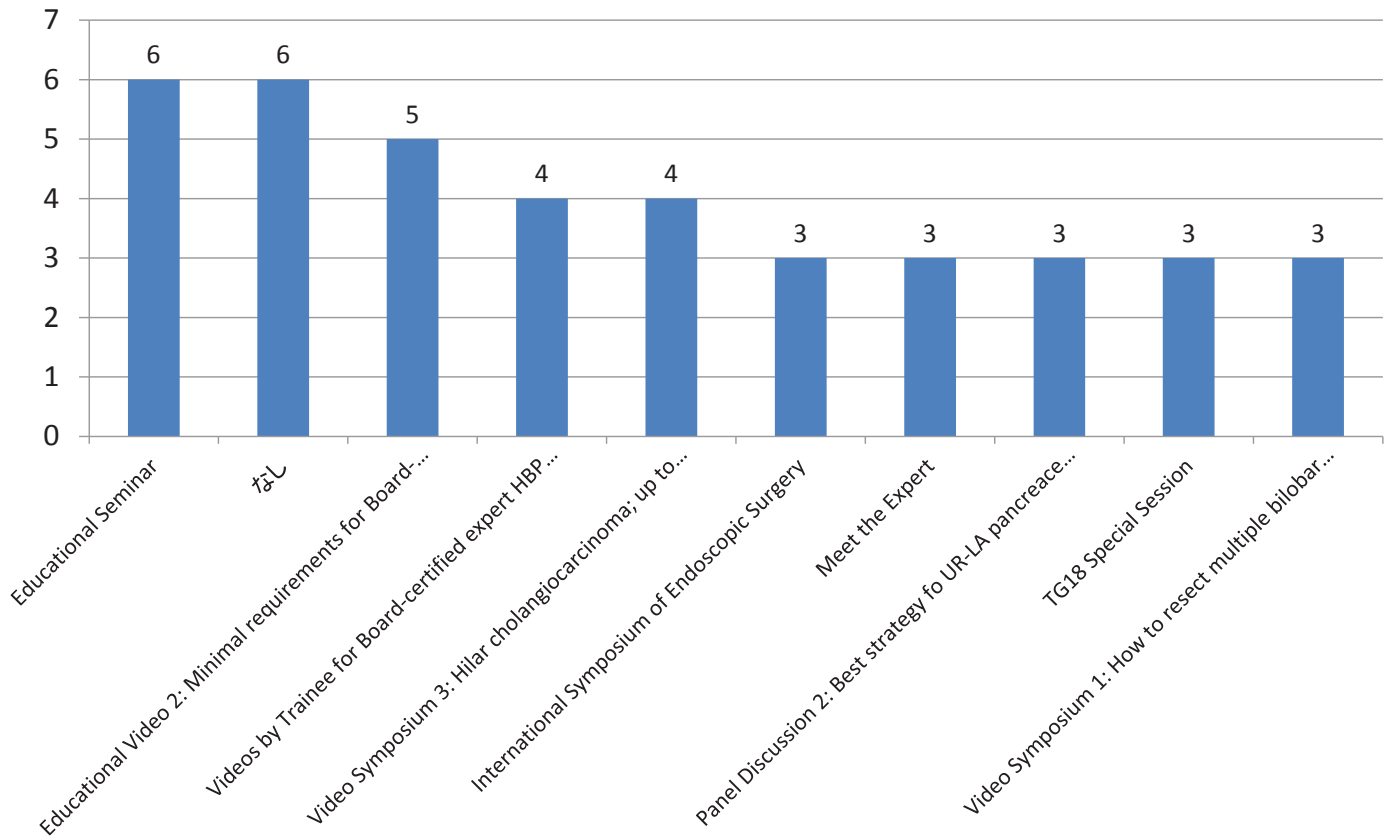
問3-2.参加しなかった理由

- ・通常業務 28名
- ・英語化のため 14名
- ・遠方であった 13名
- ・専門領域が異なる 3名
- ・留学中 1名
- ・他の学会と重複 1名
など

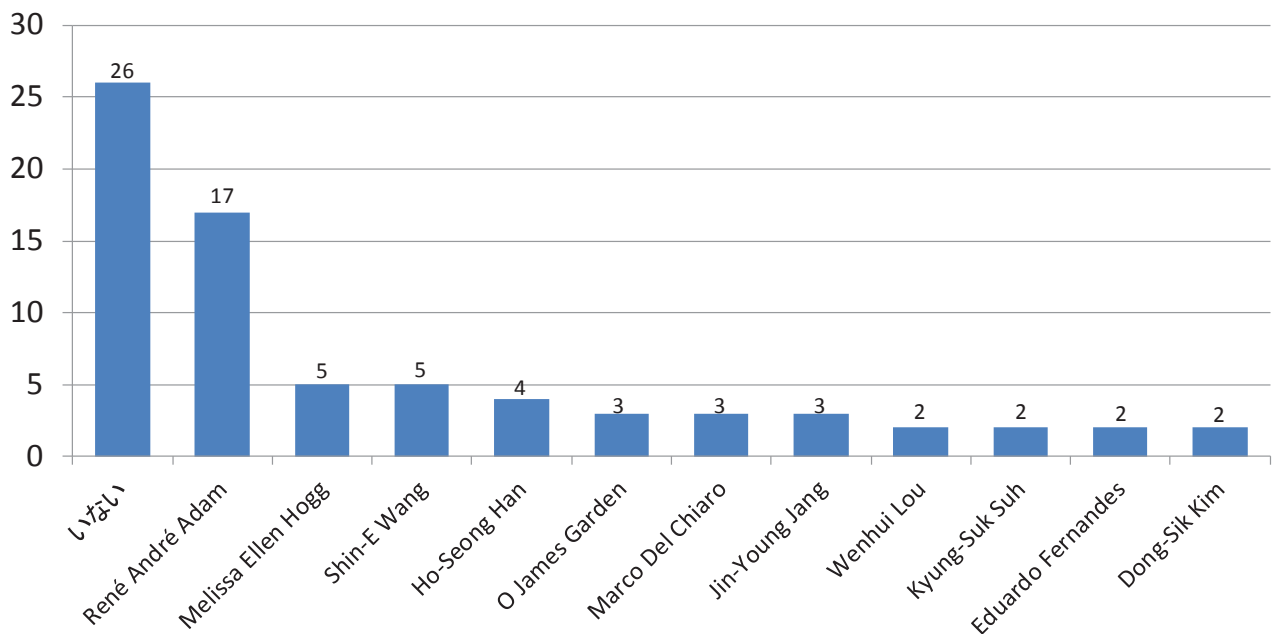
問3-2.参加しなかった理由

- ・通常業務 28名
- ・英語化のため 13名
- ・遠方であった 13名
- ・その他 8名
- ・専門領域が異なる 3名
- ・留学中 1名
- ・英語化のため／遠方だから 1名
- ・英語化のため／遠方であった 1名

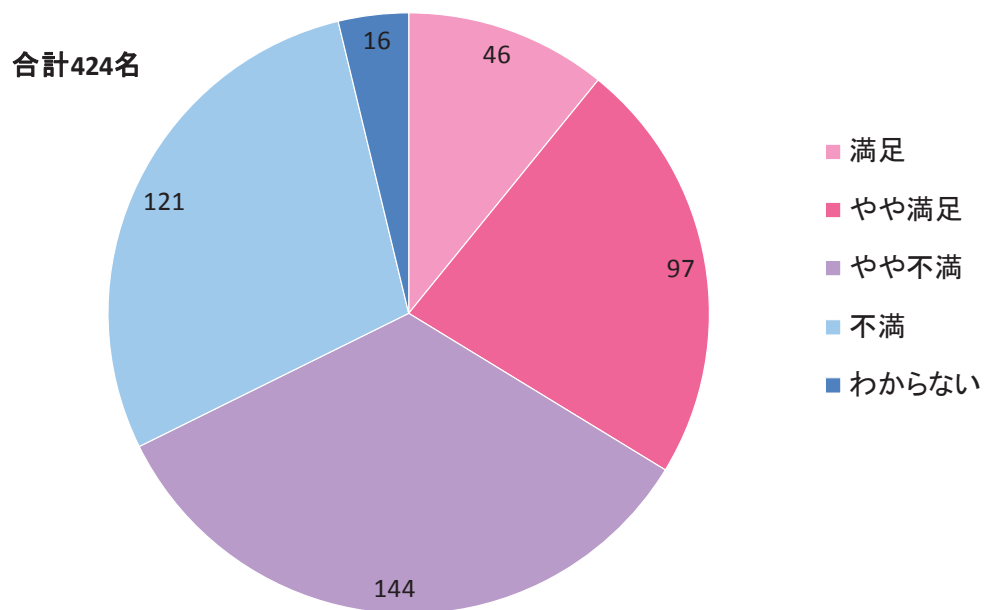
問4_2. プログラムの中で最も印象に残ったセッション



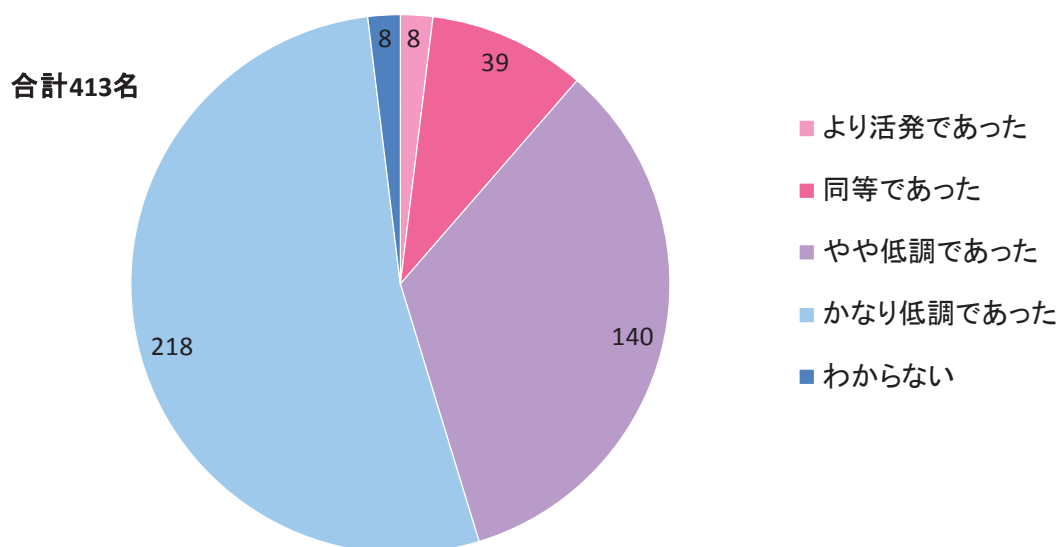
問4_3. プログラムの中で最も印象に残った海外招待者



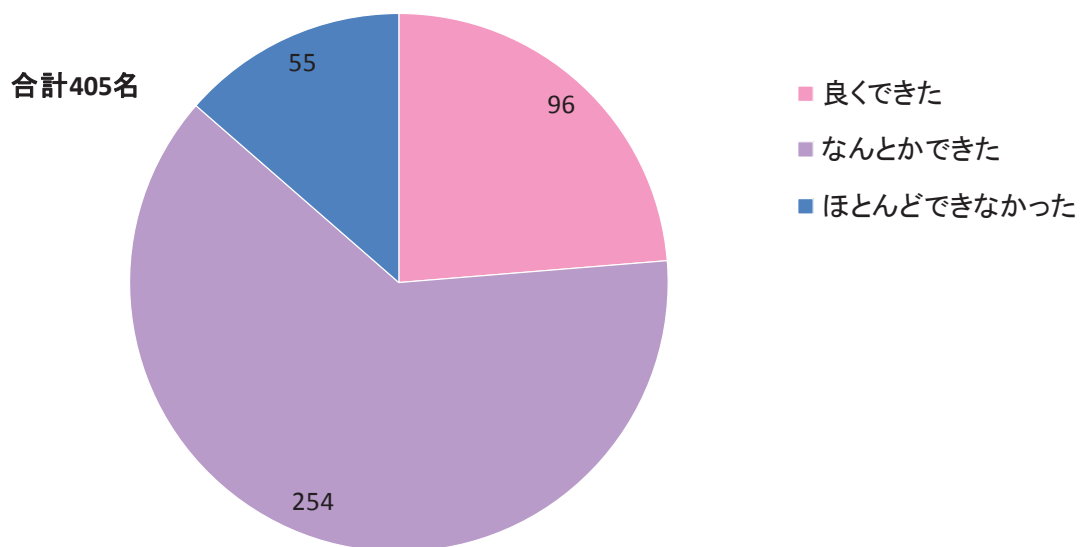
問5_1.プログラムの英語化について



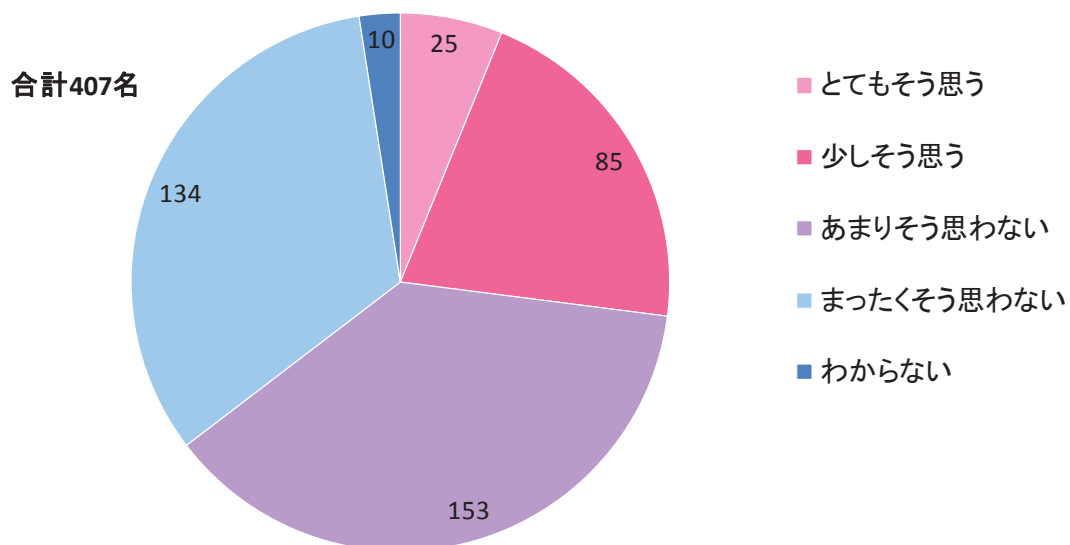
問5_2. 英語でのプログラム中の討論や質問は、 他の日本語で行う学会と比較して活発であったか



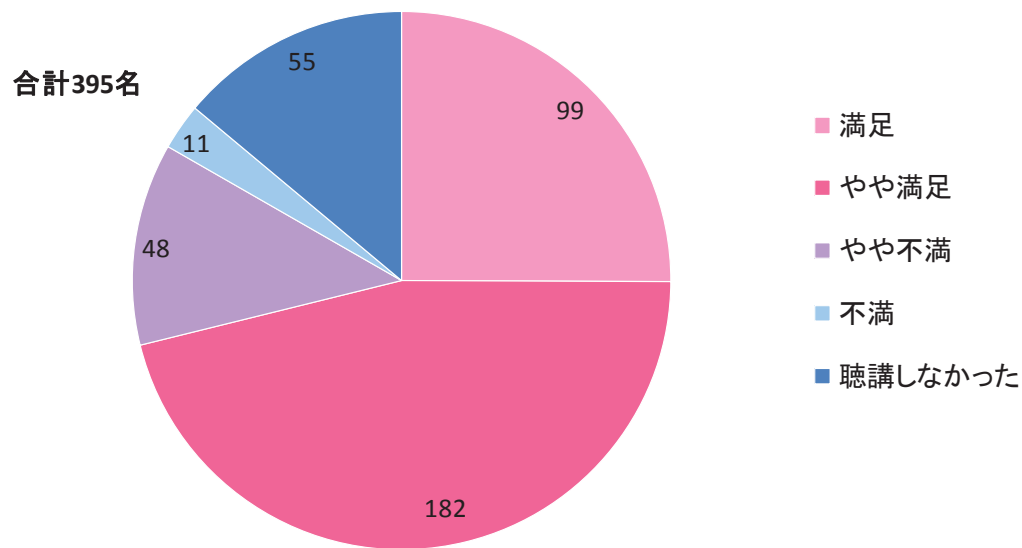
問5_3. 英語でのプログラムの演者・司会者・質問者の 発表内容や発言は理解できたか



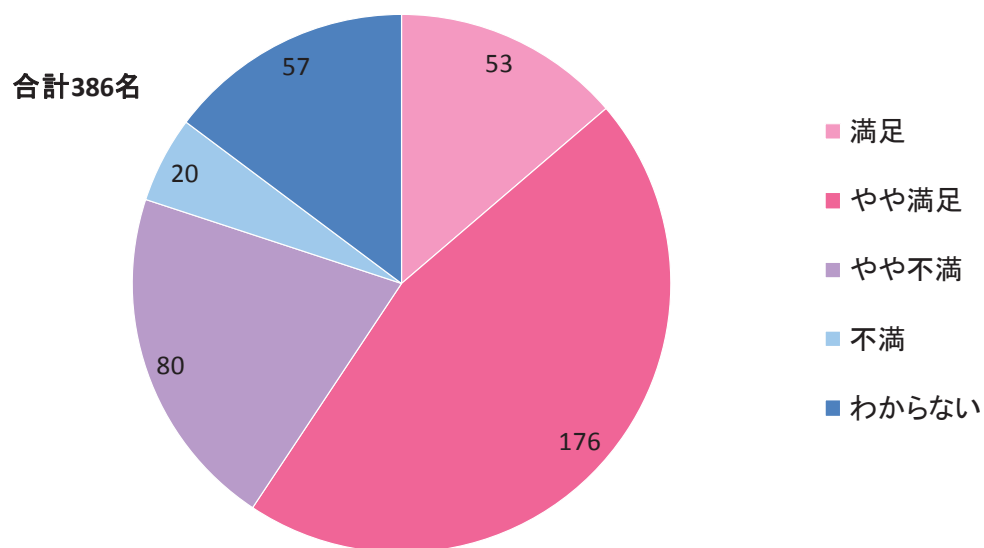
問5_4. 英語でのプログラムは日本語と同等の 学術的レベルであったか



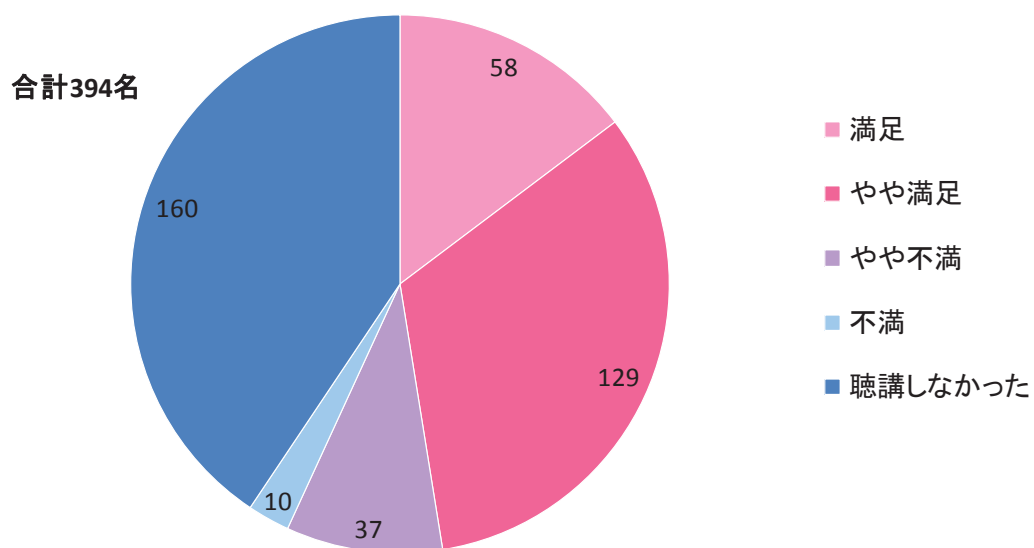
口演 (Free Paper) について 問6_1. 発表時間の長さ



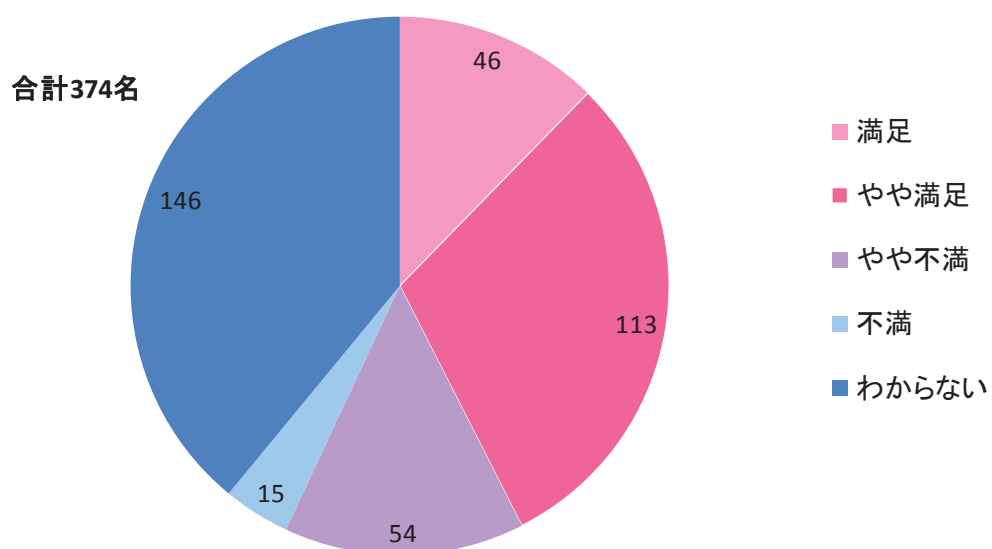
口演 (Free Paper) について 問6_2. 学術的評価



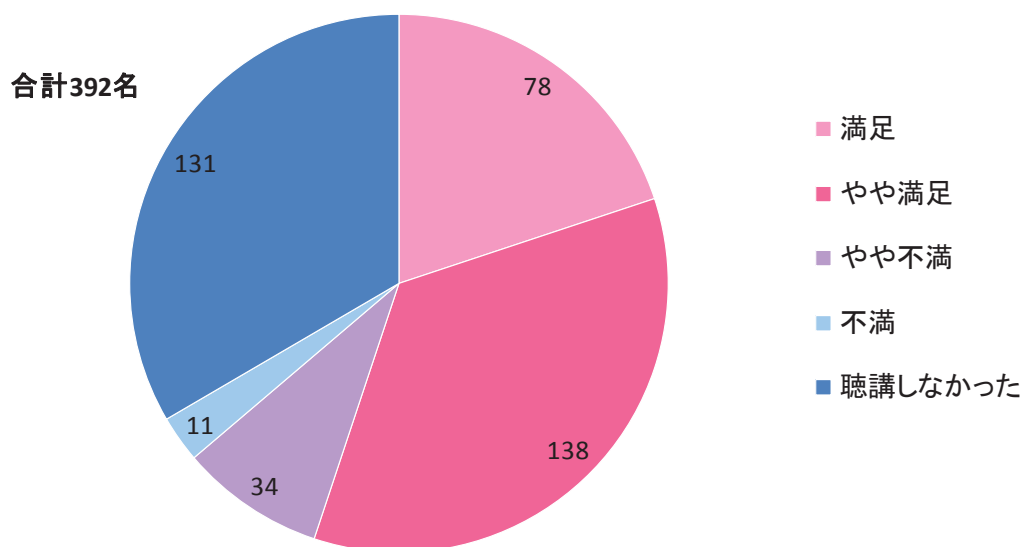
口演 (Promising Youth Session) について 問7_1. 発表時間の長さ



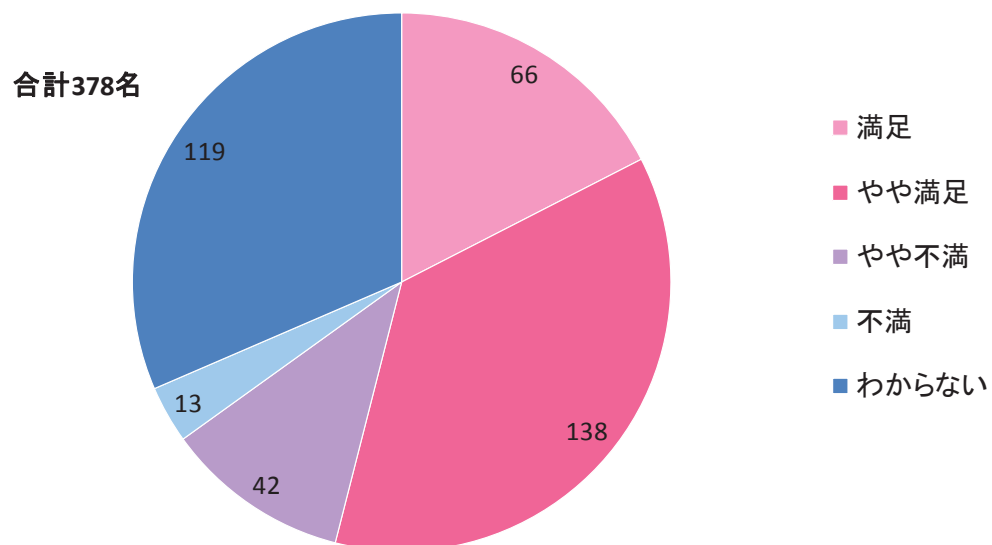
口演 (Promising Youth Session) について 問7_2. 学術的評価



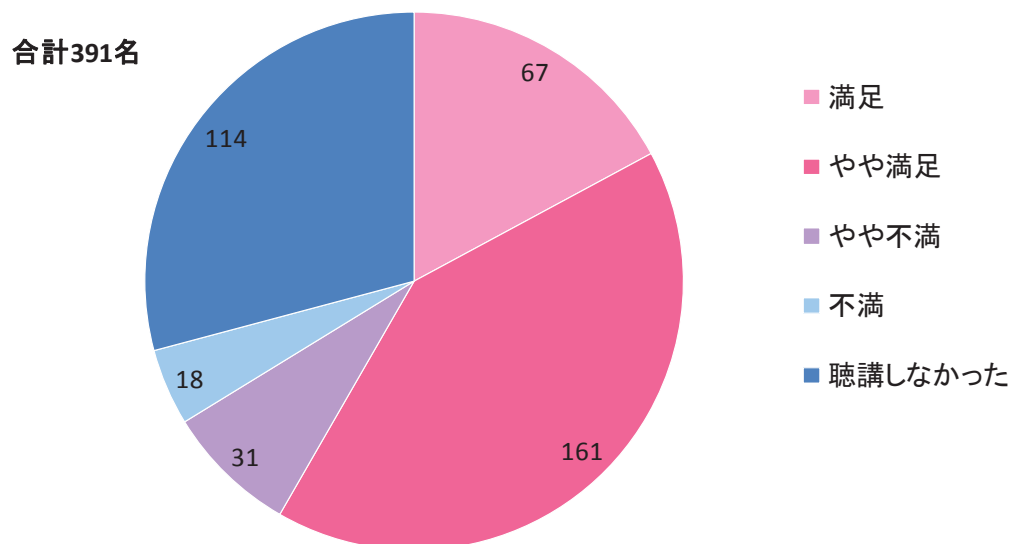
口演 (Meet the expert) について 問8_1. 発表時間の長さ



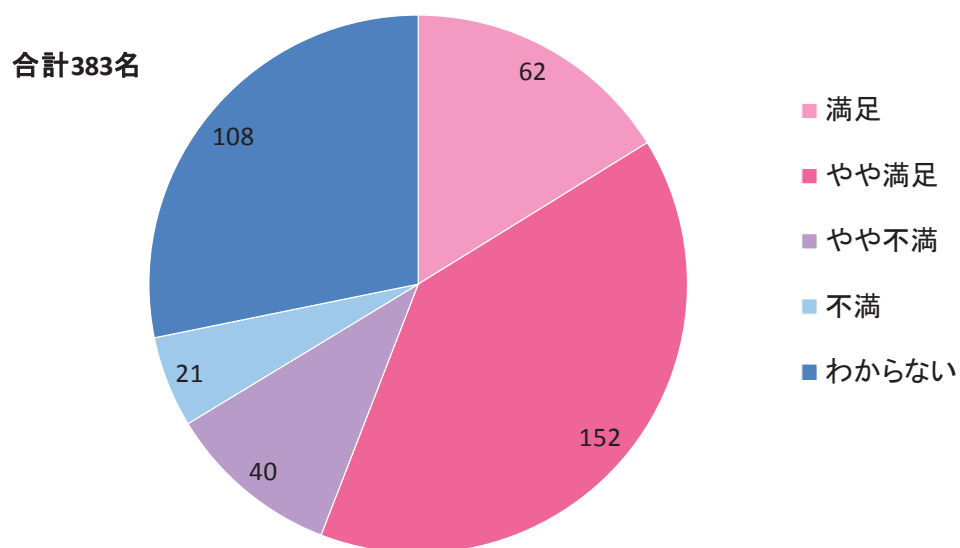
口演 (Meet the expert) について 問8_2. 学術的評価



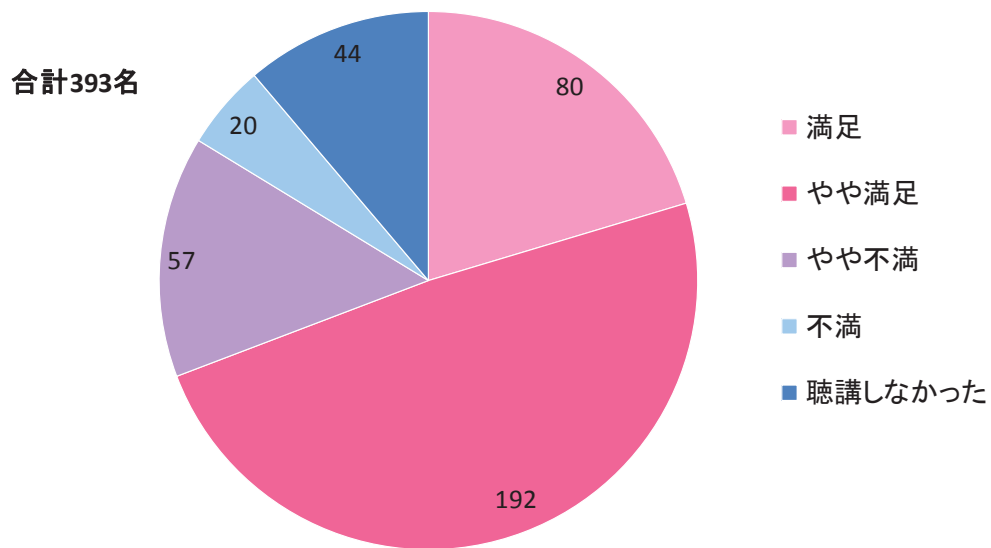
口演 (Video by Trainee for Board-certified expert HBP surgeons)
について
問9_1. 発表時間の長さ



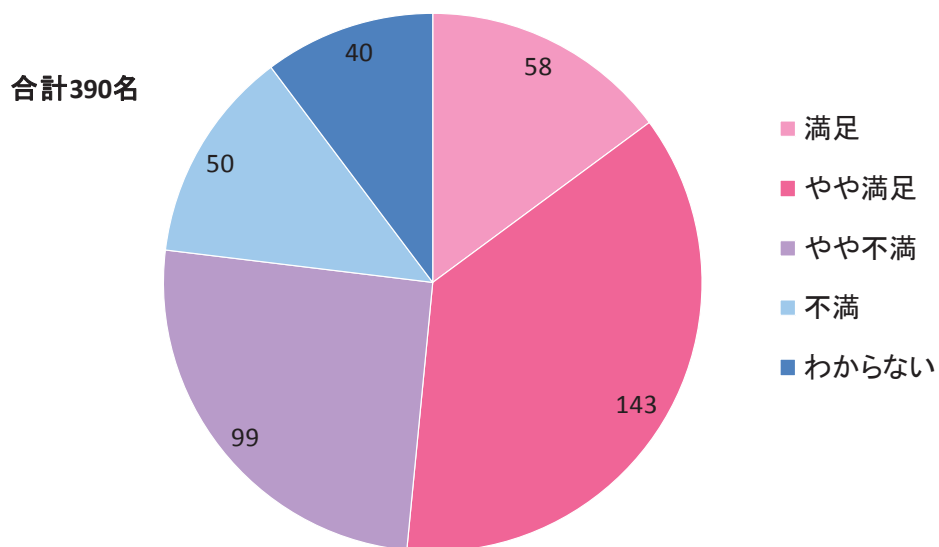
口演 (Video by Trainee for Board-certified expert HBP surgeons)
について
問9_2. 学術的評価



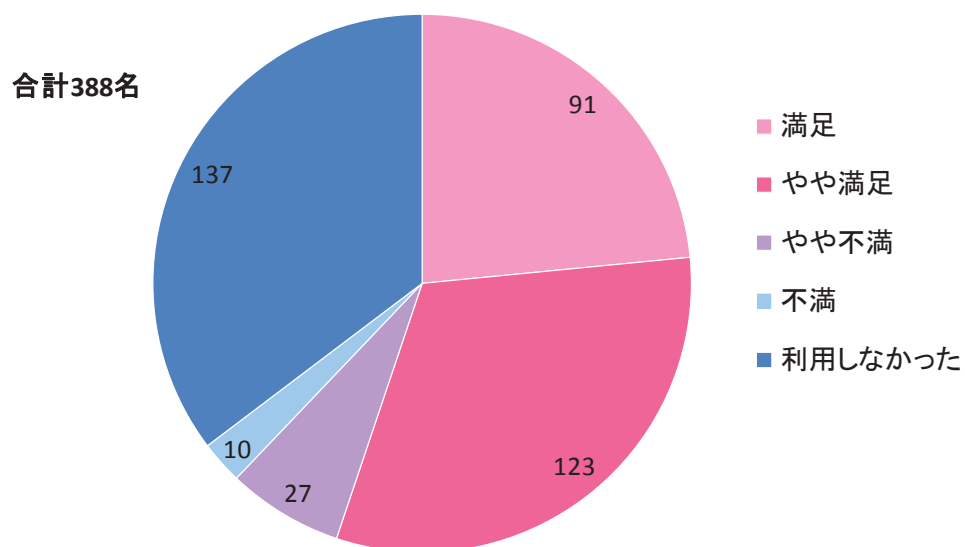
ポスター発表 問10_1.ポスター発表時間の長さ



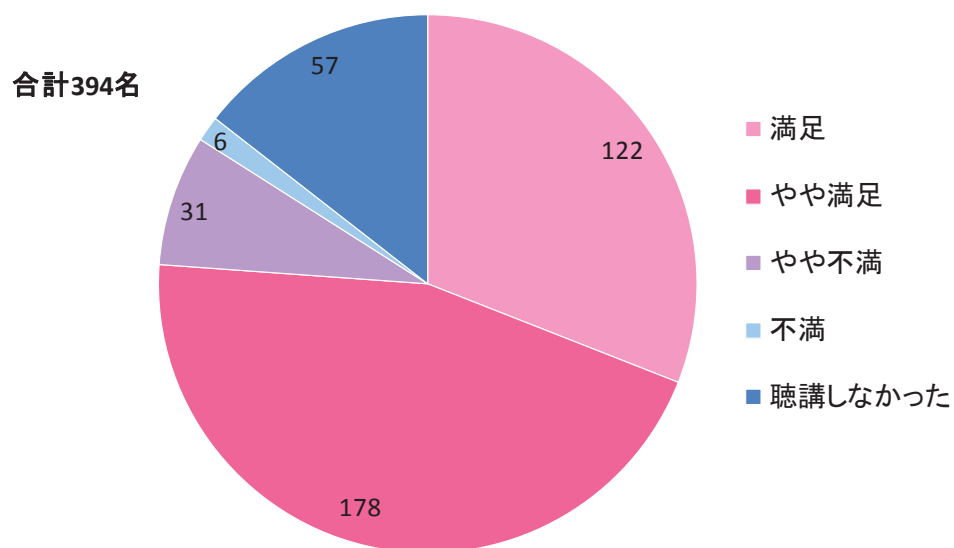
ポスター発表 問10_2.会場の広さ



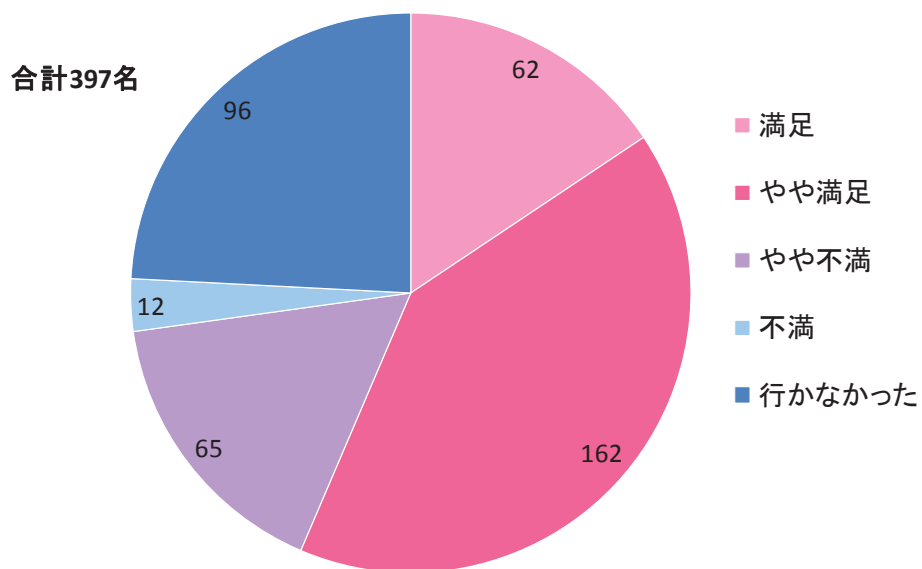
問11.PC Preview センターの運営などの満足度について



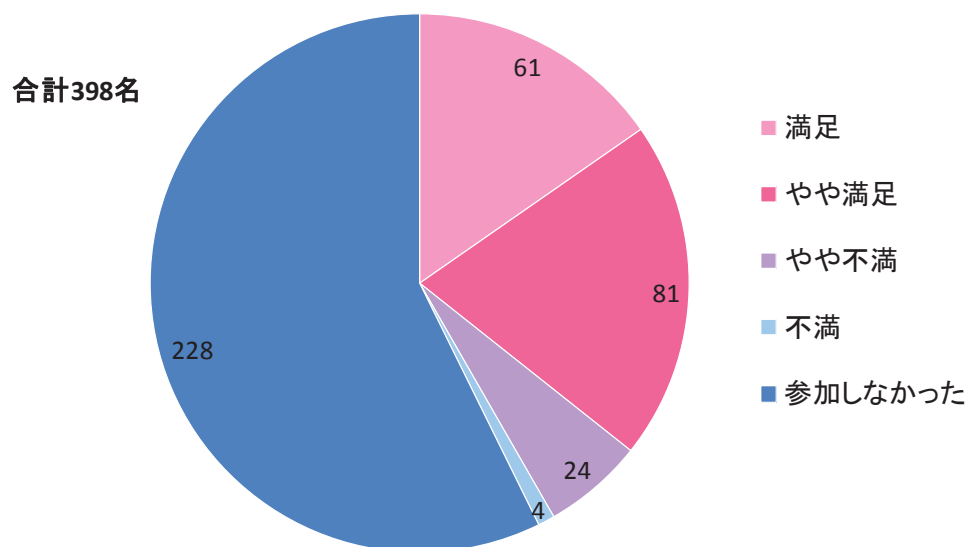
問12_1.ランチョンセミナー・イブニングセミナーの内容



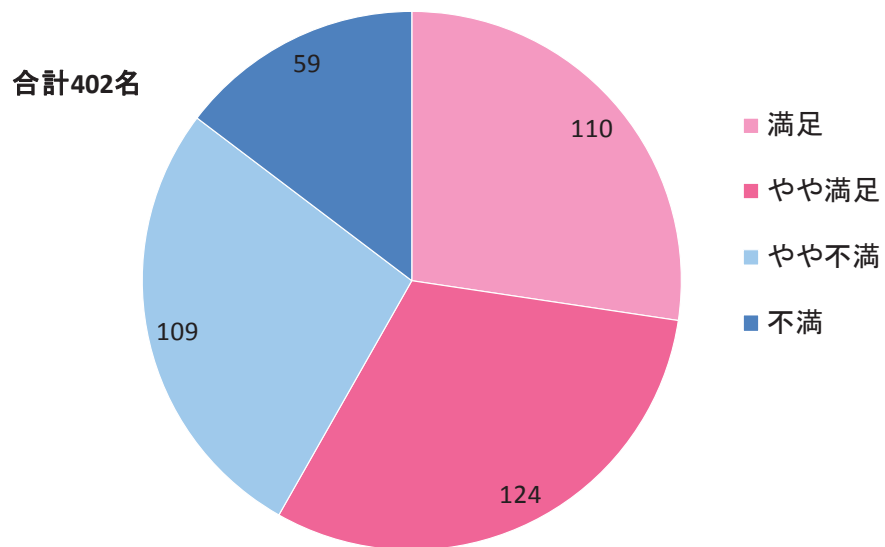
問12_2.企業展示の内容展示の内容



問13.全員懇親会の満足度



問14.交通の便



第 31 回学術集会后アンケート

問 15

1. 英語化について(75 件)

- Educational seminar は海外の医師も聞きに来ているのになぜ日本語なのか？ 演者の怠慢ではないでしょうか
- Oral presentation は英語でもよいと思うが、せめて poster の表記は英語、討論は日本語でどうか
- Video by Trainee for Board-certified expert HBP surgeons では技術的な注意点などの説明が発表もアドバイスも英語ではニュアンスが十分に伝わらず、せっかく準備してきた演者が気の毒であった。このような日本人に対する教育目的のセッションは日本語にした方が良いと考える。
- Video by Trainee for Board-certified expert HBP surgeons は試みは良いと思いますが、質疑応答が機能していなかった(自己紹介を英語でしているなど、学術的な質問ではなかった)
- あいかわらず Discussion がとぼしく日本語学会の方がためになる
- いつまで英語化でやるのだろう。参加者が減っていき、大学からの参加のみになっていくだろう。残るのは特定の施設のみで、学会参加者のほとんどが評議員、大学のみ、そして学会参加費をどんどん上げていくだろう。誰のための学会かわからない。
- スライド、ポスターが英語はいいと思いますが、一般演題の発表は日本語の方が議論が盛り上がると思います 上級演題は全部英語で、そういう覚悟のある方が登録すればいいと思います
- スライドは英語でもいいが、発表は日本語のセッションを残してほしい。
- スライドやポスターは英語で、発表は日本語と英語半々が、よいと思います。日本人同士ならなら日本語でディスカッション。インターナショナルセッションなら外国人とも英語が良いと思いました。さらなる学会発展を切望します。
- スライドやポスターは英語でも良いですが、外人のいないセッションまで英語にする必要は無いと思います。深い議論ができません。シンポジウムやワークショップなどのセッションと、international poster セッションのみ英語での発表・討論とし、一般口演や通常のポスターは日本語で発表・討論とすべきだと思います。
- プログラムの完全英語化の悪影響が大き過ぎる。学術集会の参加比率、内容、議論の全てにおいて直接学術内容とは関係のない言語問題で台無しになっている。また、高度技能専門医のハードルを上げるような話も伺った。育成・成長を望む若手外科医の立場からすると学会の孤立化とマニア化がすすみ、魅力が年々減っていると感じる。
- ポスターでは最終的には日本語になっているので日本語で発表すべきであると思う。教育講演は日本語でやるのは理解してもらうためという理由だろう。では上級演題は理解されなくてもよいということなのか。英語で行う International セッションとそうでないセッションを分けるべきと考える。
- ポスターについては日本語表記、日本語発表でいいと思います肝胆膵外科は登竜門的な学会でもあったのに 研修医に発表させる敷居が高すぎる一般口演も消化器外科学会に準じてスライド英語 発表日本語にすべき
- ポスターの作成は英語でも良いが、ディスカッションは日本語でも良いのではと思います。議論ができていません。

・ポスター会場で、発表者が質問に英語で答えられず、戸惑っておりました。手術に関するポイントで、日本語でも微妙なニュアンスでありました。そのため、司会と相談して、日本語での議論をしました。周りには日本人しかいない、というポスター会場では、日本語も交えていいのではないか、と思いました。ただ、若手が英語で考え、議論する土壌も必要とは思っています。過渡期なので、これを乗り越えるしかないとは思いますが。

・ポスター発表だけは日本語にして欲しいです。

・やはり英語はスライドは仕方が無いとしても、せめてポスターセッションや教育講演やランチョンセミナーは日本語でしてほしい。全く頭に入ってこないため、学会に来る意味が、評議員更新のためだけになっている。

・やはり英語化によるメリットが全く感じられない。発表後の討論まで英語のためか、かなり低レベルな質疑応答で終わることがほとんどである。日本語で議論すればはるかに高度な討論になると思われ、非常に残念である。一部の国際化セッションを残すのは構わないが、他のセッションについてはスライドは英語で作成するにしても、せめて質疑応答は日本語で行うようにするべきと考える。英語化に対して批判的な意見が既に昨年から非常に多く寄せられているのであるから、学会側も頑なにならずに真摯に検討するべきである。

・一般演題の英語科はやめた方がよい。明らかにレベルが低くなった

・一般演題の質疑応答は、せめて日本語で行うべきではないか？この学会は、日本の学会であり、ならば自国の言語で討論を行うことも大事だと思う。

・英語が標準は、理解しますが、日本語を大切に、良いのではないか？交通の便に難点。

・英語でディスカッションすることに会員の多くが、慣れてきていると思います。

・英語での質疑応答のもどかしさ。学会参加者は発表者に対して質問した際に、どの程度の回答を得られているのか？やはり学会に参加するならば、十分な知見を得たいと思うが、現行のシステムではそれば実現していない人が多いと思われる。学会の運営に関して、何に重きを置くか(学会の体裁、参加者本位であるか等)は今後の大きな課題と思われる。

・英語での発表が基本だが討議に関しては、日本語での質問も認められるような寛容性があってもいいのかもしれない。

・英語での発表により議論が低調に感じられます。

・英語での発表は大変かも知れない。また討論も低調になる傾向にあるが、くだらない発言がなくなりスリムでよい。今後の展望から英語の抄録、発表は継続した方がよいと思います。

・英語になった内容が薄くなり、討論も浅くなった。日本人の集まる学会で英語のみは内容の質を下げるだけではないでしょうか。

・英語になれるには英語化はいいと思いますが質問等も含めて細かい内容が伝わりにくい場面があります。日本語のセッションも希望します

・英語のセッションと日本語のセッションを分けてほしい。質問も議論も深まっていない。

・英語のセッションと日本語のセッションを分けても良いと思う。全部が全部、英語にする必要はあるだろうか？

・英語の討論で、司会者からの質問に答えてみましたが、お互い上手に発言できないこともあり、一方的に攻撃的なコメントをもらい、議論にならなかったです。施設としての主張が全くできず残念でした。言いたいことを言えない不自由を学ぶことも大事だとも言えるかもしれませんが。

・英語はやめましょう

・英語を使用しているのに学会が国際化しているという勘違いがある。議論が深まらず、細かい内容についてないがしろになっている。肝胆膵領域は専門性が高く、施設間の違いや Expert の考えや手技を深く学ぶために学会に参加しているのに、学びが非常に少ない。スライド・ポスターの英語化、international session での英語プレゼンテーションは非常に良いが、全プログラムの英語化は学会をつまらないものにしていく。そのためではないでしょうか？若手医師の学会参加が少ないのでは？消化器外科学会会員のうち肝胆膵外科学会に参加して、この領域を目指す若手外科医は増えていないのでは？

・英語化イコール国際化には大賛成であるが、いかんせん発表者も司会も英語が下手で、発音も悪いため何を言っているのか意味不明のことが多い。さらには、質問者の英語も下手で、発音が悪いのか、聞く側の能力のためなのか、質問の内容が全く伝わらない状況も多々見受けた。発表だけは英語原稿を作り何とかなくても、学会で最も重要な質疑応答が不十分な状態である。英語による質疑応答を充実したものにするためには、学会員がこぞって英会話の力をつける努力をしなければいけないと思う。英語発表の条件にTOEIC何点以上、英検準 2 級以上などの制限をつけるというのではないか！かなりハードルが上がって演題数が激減するリスクがあるので、条件を満たさない人は日本語セッションに応募してもらえばいい。そのくらいしないと、いつまでもたっても「英語でやってる変な学会」の域から脱却できないと思う。

・英語化により急に参加する意義が薄れてきました。日本人が圧倒的に多い国内学会での英語化については異論があるところですが。誰のための学会なのか。外国人に通訳を付ける方が合理的な感じがします。全会員に英語を強要することは乱暴と感じざるを得ません。

・英語化による弊害があまりにも大きい。学術集会在がマニアの趣味になってしまう恐れがある。より一層これからの担うべき若手の意見に耳を傾け育成をすすめて欲しい。

・英語化は英語使用の機会にはなるが、議論に深みがなく、学会自体があまり勉強にならず、今後足が遠く恐れあり

・英語化は上級演題のみでいいと思います。スライド・ポスターは英語で、発表は日本語に戻しては如何でしょうか？

・英語化は百害あって一利なしだと思います。自分は英語が話せると思っていると思われる座長の方達の英語力も、変な癖があったり文法がめちゃくちゃだったり、学術大会というレベルには程遠く、参加する意義が年々薄れていく印象です。

・英語化は本当にダメすぎる。ほとんど意味のない学会となってしまった

・英語化も良い部分もあるのですが、日本語のセッションをもう少し作った方がよいのではないかと思います。医療においても他の職業でも当てはまると思いますが、日本語でのコミュニケーションであったために技術伝播が上手に行って日本独自で技術力が進歩したことを忘れていていると思います。このままだと世界の学会で行われている学会との違いがなくなっている、日本人だけでやっている交流ももっと大事にした方がいいと思います。

・英語発表のため十分な discussion ができておらず、学術発表会としてかなり疑問を感じる

・英語発表は外国人のためにも 3 つ帯くらいにして、あとは日本語がよいと思いました。

・会場の立地、内容、進行ともに良かったです。英語化が着実に進んでいると感じました。ありがとうございました。

・海外からの参加者がいないセッションで日本人だけが英語で盛り上がりず発表していることに意味はあるのでしょうか。英語で発表する場を求めるなら海外学会に参加します。肝胆膵外科学会は日本人の英語練習学会として位置づけているのですか？

・海外からの参加者が増えているのはいいことではないかと思う。若手としては、学会で年配の先生方から指摘されることが勉強になるが、英語の障壁のせい、完全英語化以前より鋭い質問が減り、寂しい印象である。

・皆さんが最初から思っているとおりの英語スライド、日本語発表、討論がベストだと思います。討論、理解の低調さは回を重ねても何ら変わらないです。

・完全英語化は全体的な学会内容のレベルを下げるほか、若手や地方病院からの演題が出しづらくなるので、他の学会と同様に”部分的な”英語化に戻すべきだと思います。

・完全英語化は論文だけに留めてほしい。英語の得意な人だけが有利で不平等であると思います。

・教育講演は日本語で行っていただきとも勉強になりました。

・高度技能専門医取得のため、仕方なく参加したが・・・英語セッションはストレスでしかない

・今回は参加しませんでした。次回はポスターで参加しようと思います。前回ポスターのつもりが、口演になってしまい、英語での質問が全くわからず恥をかきました。頑張って質問もしてみましたが、恥の上塗りでした。なかなか英語での発表は大変です。年も経っていますので少しずつ頑張ってみます。

・今回は参加しませんでした。前述の通り、英語化によってレベルの低下は認めません。HBP scienceのIP低下の一因になっている可能性もあります。国際化、には賛成ですが、それよりも十分な理解、ディスカッションを優先させるべきです。でないと、ますますレベル低下を招きます。国内学会を英語化するよりも、国際学会への積極的参加を促す方へ向かう方が現実的です。

・昨年のアンケートでも英語化に関してはかなり厳しい結果だったのにも関わらず、是正されないのはアンケートを書く意欲を失うものです。

・昨年までと比較しても、より全体に参加者も英語で積極的に討論に参加しているものと思われました。

・参加費が高い。内容的に期間は2日間で十分。ディスカッションは日本語にしてほしい。

・質疑応答は日本語にしていただくとありがたい

・抄録・プログラム・スライドは英語にすべきかと思いますが、肝胆膵外科に関する学会のはずが「英語が得意かどうか学会」になってしまっているのが、インターナショナルセッション以外のプレゼンは日本語とすべきかと思います。

・消化器外科学会総会のように、英語のポスターで日本語の発表にするべき。学会発表や聴講が苦痛であるし、有用と思われない。

・前回のアンケートにて英語での発表・討議についてかなり批判的な意見が多かったように記憶しています。が、今年は特にアンケート結果に触れることなく同じように開催されていました。せっかくアンケートを採って、様々な意見を拾い上げているのであればそれを何らかの形で反映すべきではないでしょうか。完全英語化により興味を失いつつある学会に、資格維持のためにお金を払い出席することに嫌気がさして

きています。

- ・全セッション英語の方針は若手への敷居が高すぎるので早急にやめるべきだと思います。
- ・全プログラム英語にするのはやめてほしい
- ・全演題の英語発表が続くのであればもう参加しないつもりです。
- ・早く英語をやめてほしい。内容が理解できず、勉強にならない。英語は海外でどうぞ。
- ・早く英語化を解除してほしい。全く勉強にならない。
- ・大変素晴らしい会を開催頂きましてありがとうございました。学会の完全英語化はやはり議論の低調をまねていると思います。対し、出席者の殆どが日本人で招待講演者以外の外国人は殆ど居ない状態です。APHPBA や IHPBA との棲み分けを考えても良いかと思いました。
- ・地に足のついた学会運営をお願いします。上だけ見ても仕方ないと思います。
- ・日本での学会なので、日本語で屈託なく議論できる方が望ましいと思います。(もちろん国際セッションはあったほうが良いと思いますが…)正直、英語の学会に出すのであれば、せつかくなので IHPBA などの国際学会にしたいとなります。
- ・日本の学会で、質疑応答まで英語化にすると十分な議論ができていないように思う。留学経験のある医師にとってはいいかもしれないが、そうでない医師にとって、今後の学会参加を敬遠しがちになることが懸念される。
- ・日本語の session もあればと思います
- ・日本語のセッションを増やすべき。議論が中途半端な印象。このままでは、逆に学会のレベルが低下する。
- ・日本人による日本における学会での英語での発表は、海外学会での口演の経験があるものとしてはものたりなく思います。理由として、Chair person も、Floor も、日本語を英語にすることばかりに気をとられ、肝心の内容に関する学術的議論がままならないからです。海外学会では、ネイティブが相手でありながらも、Chair や Floor が扱うのは母国語のため、聞き取り手の発表者が努力することによりある程度学術的議論は成り立ちます。表現の仕方が難しいですが、この違いは大きいです。
- ・発表者や、司会者の英語の発音やアクセントがおかしいところが時々あった。日本人の私には非常にわかりやすい英語であったが、native には、通じないだろうなと思いながら聞いていた。発表者は正しい発音とアクセントに注意していただきたい。特に司会者の方には、お願いしたい。日本語の学会より、疲れたのは事実である。海外の学会より疲れたのは、なぜだろうか？
- ・毎年、参加して発表させていただいておりますが、英語のレベルが上がっている気がした。そろそろ限界かもと思った。私は一般外科医で、general に外科をやっているのですが、だんだん肝胆膵外科医だけの会になっているので、辛いです。ついていこうとは思いますが、一部の high volume センターだけの会になっている。一般病院でこの類の手術を禁止するようにしてセンター化するか国レベルで対応してほしい。一般病院ではせざるを得ないし、学会としてはどう考えているのでしょうか？高度技能医も今 46 歳で、施設基準もあり無理です。挑戦するチャンスがあればしたいのですが、そのハードルは無理です。
- ・流暢に質疑応答を英語でしている先生も中にはおられたが、平均的な日本人の英語による質疑応答のレベルの低さに驚いた。座長の先生でも半分は会話になっていない。国際学会で日本人が質疑応答を上手く出来ない状況を如実に反映していた。しかし、ここで以前の様な日本語での質疑に後戻りすること

はよくないと思う。日本の英語教育も話す、聞く、の方向にシフトしてきており、今後一層英語が大切になってくると思う。国際化を進めている学会の意図は大切なことであるし、このまま続けてほしい。今後の若い世代に期待したい。

2. プログラムについて(7件)

・3日ではなく2日で十分だったと思います。病院経営は赤字で少しでも手術件数を稼がなくては病院が成り立ちません。お願いします2日にしてください。

・Promising Youth Session では座長の質問が学術的なものでなく(自己紹介を求めるなど)、あまり興味深いものでなかったです

・VRなどの最新技術を体験できるハンズオンやセミナー、ブース展示があるといいです。

・海外学会を模倣するのであればポスターの発表はなしにして掲示のみにするべきです。

・高度技能専門医に司会や座長等を当てるようにすべき、そのうち内視鏡外科技術認定は受けるが、高度技能専門医は不要と思う人たちが出てくる

・途中の無駄な時間を排除して(次のセッションまでの待ち時間が長すぎる)、開催期間を2日間あるいは2日半として、コンパクトにできたら良いと思います。

・内容が盛りだくさんすぎる。会期を1日減らすべきいつも同じ内容の繰り返しで飽きる。クレジットで参加者を募るのは一手段ではありますが、そのやり方が露骨。クレジットがなかったらいったいどれくらいの参加者になるのだろうか?かなり上底になっている。

3. 参加登録・参加費について (5件)

・クレジットカードが使えないことが厳しかったです

・会場の案内が不十分参加費が現金のみは不便(カード使えず)飲み物とはがわずかしかない日本人し
かいなくても英語 他領域の Dr からナンセンスと失笑された。

・学会参加登録(受付)が自動でなく、しかも現金のみの扱いで驚いた。

・参加証の発行がアナログで(ペンで記載して申し込まないといけない)あり 非情に不満。 ネットでのログインあるいは カードでのログイン機を使用してほしい

・参加証の購入にクレジットカードが使用できない学会は経験がなく不満。 宿泊先を聞かれたのも意図がわからず手続きに手間をとらせ不満であった。

4. クレジットについて (2件)

・ポイント獲得はeラーニングにして欲しい。

・肝胆膵外科学会を地方で行わないでほしい。往復の時間は日常診療に影響を与えます。教育セミナー受講によるクレジットも資格維持のために必要であり、交通の便の良い都市(東京、横浜、大阪、福岡)での開催を希望します。

5. その他 (13件)

・アプリの会場の地図が以前開催された横浜パシフィコの地図が出てきて混乱しました

・お疲れ様でした。東京より地方都市の方が訪れたい

・ぜひ、肝胆膵外科専門医の門戸を開放してほしい

- ・プログラムアプリの地図がパシフィコ横浜であった。
- ・よくまとまった素晴らしい学会でした。会長ほか皆様のご尽力に感謝します。
- ・学会長の心使いが、素晴らしい学会でした
- ・交通の不便さはやむを得ない。むしろ普段行かないところだったので、よかった。
- ・香川に行くのが時間的にとても大変で、若い世代は参加しづらいです
- ・高松の街も会場も大変いいところで感心しました。開催ありがとうございました。
- ・全員懇親会ですが、雨で急遽屋内になったこともあるかもしれませんが、エンターテインメントで出演したグループはどうかと思います。もっと日本らしい、ある程度気品のある演出にしてほしいです。海外からの参加者が多くなっているだけに残念です。
- ・地方の学会として、良く運営されておられたと思います。
- ・地方都市開催ながら、Hospitalityにあふれた素晴らしい学会でした。ポスター会場が狭いと思いました。英語化は課題も多いですが、続けるべきだと思います。
- ・良い学会でした